

第 52 回全日本登山体育大会

茨城大会 開催要項

「5 億年の大地を歩いて体感しよう」

期 日 平成 25 年 11 月 8 日（金）～10 日（日）
会 場 水戸市、大子町、常陸太田市、北茨城市、日立市、つくば市



主 催 (公社)日本山岳協会
主 管 茨城県山岳連盟
後 援 文部科学省、環境省、(公財)日本体育協会、茨城県
茨城県教育委員会、(公財)茨城県体育協会、水戸市
つくば市、大子町、常陸太田市、日立市、北茨城市
茨城県北ジオパーク推進協議会

第52回全日本登山体育大会 茨城大会 開催要項

大会目的

『関東平野に悠然とたたずむ名峰「筑波山」、日本三大名瀑「袋田の滝」、日本近代化の一端を担った「常磐炭田」、「日立鉱山」を懷に抱く茨城の山河をめぐり、太古の地質・地形と日本列島の生い立ちを知る』

1. 開催期日 平成25年11月8日（金）～10日（日）2泊3日
2. 主催 (公社)日本山岳協会
3. 主管 茨城県山岳連盟
4. 後援 文部科学省、環境省、(公財)日本体育協会、茨城県、茨城県教育委員会
(公財)茨城県体育協会、水戸市、つくば市、太子町、常陸太田市、日立市
北茨城市、茨城県北ジオパーク推進協議会
5. 開催場所 水戸市、太子町、常陸太田市、北茨城市、日立市、つくば市
6. 受付け・開会式会場 『水戸京成ホテル』 電話 029-226-0011
茨城県水戸市三の丸1-4-73 JR水戸駅北口（P5参照）
7. 募集人員 250名
8. 日程
 - 第1日目 11月8日（金）

12:30～14:00	受付「水戸京成ホテル」
14:00～14:30	開会式「水戸京成ホテル」
15:00～16:00	講演会『茨城県内山地の成立ー5億年前から日本列島誕生までを見る』／参与会
16:30～	宿泊場所へバス移動開始（到着後夕食、入浴）
 - 第2日目 11月9日（土）

6:00～8:00	登山口へバス出発（コースにより異なる）
7:30～9:00	登山開始（コース別登山行動）
13:30～15:10	登山終了、バスにて水戸駅に移動
16:30～17:00	バス水戸駅到着、宿泊場所へ移動（入浴他）
18:30～19:00	閉会式「水戸京成ホテル」
19:00～21:00	お別れ会「水戸京成ホテル」、終了後宿泊場所へ移動
 - 第3日目 11月10日（日）

7:00～	朝食（朝食後自由解散）
8:30	オプションルツアー出発（希望者のみ）
集合場所 水戸駅南口 出発時間 8:30	
解散（終点）は東京駅八重洲口（解散予定時間 16:20）	

9. 登山コース (5 コース) ... ★は難易度

コース名	行 程	難易度	募集 人員	11/8 宿舎
Aコース 筑波山 (周回)	筑波山神社⇒(白雲橋コース)⇒女体山⇒男体山⇒御幸ヶ原、紫峰杉⇒(御幸ヶ原コース)⇒筑波山神社	★★★ 6.2 km、6:45	80 名	筑波山江戸屋 (つくば市)
Bコース 奥久慈男体山・ 袋田の滝 (縦走)	袋田の滝⇒(バス)⇒大円地⇒男体山⇒白木分岐⇒第2展望台⇒第1展望台⇒月居トンネル東出口	★★★★★ 7.0 km、6:20	50 名	リバーサイド 奥久慈福寿荘 (大子町)
Cコース 竜神峡 (沢登り)	竜神ダム⇒亀が淵⇒竜神峡(沢登り)⇒中武生林道 (沢登り装備要)	★★★★★ 7.4 km、7:10	20 名	宝来館 (常陸太田市)
Dコース 神峰山 (縦走)	かみね公園⇒鞍掛山⇒蛇塚⇒羽黒山⇒神峰山⇒日鉱記念館(見学)	★★★★★ 10 km、6:00	50 名	ホテルテラスザ スクエア日立 (日立市)
Eコース 花園・七ツ滝 (周回)	花園市営駐車場⇒第一滝見橋⇒七ツ滝⇒奥ノ院峰⇒男体山⇒女体山⇒花園神社⇒花園市営駐車場	★★ 5.3 km、4:30	50 名	マウントあかね (北茨城市)

10. 登山の留意事項

- ①参加者は各自で大会中の飲み物、行動食、非常食を準備してください。
- ②大会2日目(11月9日)の昼食は、弁当(お茶500mlペットボトル付き)を配布します。
朝食はコースにより弁当になる場合があります。
- ③コース中トイレは有りませんので携帯トイレを持参してください
- ④ゴミの持ち帰り等自然保護に努めてください。
- ⑤Cコース(竜神峡)は沢の中を歩きますので、沢靴または替えの靴・靴下を持参してください。

11. 参加資格

都道府県山岳連盟(協会)より推薦を受けた者。

(公社)日本山岳協会の役員、参与および賛助会員。

地域の登山普及を図るため、主催者が特に認めた者。

参加者は、「山岳共済会山岳遭難・捜索保険」にできるだけ加入するようにして下さい。

*保険の問合せ先：03-5958-3396(山岳共済事務センター)

12. 参加申込み

(1)申込み方法

- ①参加者は、巻末の「参加申込書」に必要事項を記入し、記載責任者押印の上、「参加費振込みの控え」またはコピーを添えて、トップツアー(株)に送付するかFAXして下さい。

トップツアー(株) 水戸支店

〒310-0803 水戸市城南2-1-20 南ウイング水戸ビル6階
TEL: 029-224-6627 FAX: 029-224-9253 担当: 栗野・土屋

- ②記載責任者は、「参加申込書」のコピーを所属山岳連盟(協会)に提出して下さい。

(2)参加費の納入先

指定金融機関：常陽銀行（じょうやうぎん）本店

口座番号：普通口座 103589

口座名義：トップツアー（株）水戸支店

《振込みの際の注意》

振込み手数料は参加者負担とさせていただきますのでご了承ください。

振込限度額が金融機関により設定されていますので、事前にご利用金融機関にて確認されることをおすすめいたします。

現金書留での支払いも可能です。トップツアー（株）水戸支店へ「全日本登山大会係」と明記の上お送り下さい。

送付先 〒310-0803 水戸市城南2-1-20 南ウイング水戸ビル6階

トップツアー（株）水戸支店

(3)申し込み期間 平成25年7月7日（日）～平成25年9月7日（土）

***定員になり次第締め切ります。（定員250名）**

(4)大会参加費 33,000円（宿泊費・全食費・大会中の輸送費・記念品・保険料を含む）

(5)コース希望については、人員によって調整することもあります。必ず第2希望まで記入して下さい。

申し込み締め切り後に、トップツアー（株）水戸支店より決定内容の通知を9月25日（水）までに差し上げます。

(6)参加費の返却について

特別な事情により大会への参加が不可能になった場合、次の取扱いをします。

なお、返金精算は大会終了後になります。

①参加費の納入後、平成25年10月7日（月）までに参加の取消通知があった場合は、参加費の90%を返却いたします。

②前期①以外の取消については、返却いたしません。

13. 事務連絡事項

(1)大会ならびに山域に関する問い合わせは大会事務局へ。

【大会事務局】

〒300-0838 土浦市摩利山新田290-2 川村 克明方

茨城県山岳連盟事務局

TEL・FAX 029-841-5198

Eメール ibaraki-gakuren@carrot.ocn.ne.jp

(2)飛行機、JR、大会終了後のオプションツアーの問い合わせ・申込みは、

「トップツアー（株）水戸支店 TEL:029-224-6627 担当：栗野・土屋」まで。

(3)岳連(協会)旗については、10月28日（月）までに、大会事務局へ送付して下さい。

(4)「参加申込書」、「参加費等振込み明細書」の様式データは、茨城県山岳連盟ホームページからダウンロードできます。

登山コースの案内

Aコース 筑波山 (877m、つくば市)

周回コース 体力度 ★★★

= コースタイム =

距離 6.2km 動時間 6 時間 45 分(休息込)

宿舎 7 : 30 → 7 : 35 筑波山神社 7 : 50 → (白雲橋コース) → 9 : 10 弁慶茶屋跡 9 : 30 → 10 : 30 女体山
10 : 50 → 11 : 10 御幸ヶ原 (昼食、男体山・男女川源流往復) 12 : 50 → (御幸ヶ原コース) → 14 : 15
筑波山神社前 15 : 00 = (バス) = 水戸駅 17 : 00

= 筑波山について =

筑波山は日本百名山の一つであり茨城県を代表する山です。関東平野のほぼ中央にそびえる独特の双耳峰の山容は、古くから「西の富士・東の筑波」と称され、万葉集にも多くの歌が読まれています。また山岳信仰の対象ともされており、神の山として保護されています。

筑波嶺の峯より落つる男女川 恋ぞつもりて淵となりぬる (小倉百人一首 陽成院)

標高は最高峰の女体山が 877m、男体山が 871mで県内では 2 番目に高い山です。中腹の筑波山神社門前には筑波山温泉郷があり、ここが今回の宿泊場所となります。

= 登山コース解説 =

神社前の宿舎を出発し、筑波山神社を経て弁慶茶屋跡を経由し女体山頂上を目指します。登り始めはスダジイやスギ、モミの常緑樹、白蛇弁天を過ぎ標高 600m付近からは見事なアカガシの純林が広がっています。木の根が露出していて、雨が降ると滑りやすいルートです。弁慶茶屋跡付近から頂上直下まで巨岩・奇岩が連続します。女体山頂上からは関東平野が一望でき、東京スカイツリーや高層ビル群、条件に恵まれば遠く富士山も見ることができます。頂上から御幸ヶ原までの下りは歩きやすい道です。

ここで2組に別れA組は男体山頂上、B組は男女川源流と紫峰杉を往復し昼食とします。昼食後はA組が男女川源流と紫峰杉、B組が男体山頂上を往復し、合流後下山します。下山コースはケーブルカー駅の裏手から急な下りです。ひざを痛めないようゆっくり下りましょう。途中、樹齢数百年のスギの巨木群を通ります。ほぼ中間地点にはケーブルカーがすれ違う場面がみられる広場があります。ここで小休止してから神社へと下ります。

以下、コース見どころを紹介します。

<筑波山神社> 筑波男神(いざなぎのみこと)、筑波女神(いざなみのみこと)の夫婦二神を主神とする全国屈指の由緒ある名社。夫婦和合、縁結びの神です。

<白蛇弁天> ここに白蛇が住むといわれ、これを見た者は財をなすといわれます。

<弁慶七戻り> 古来「石門」といい、聖と俗を分ける門。頭上の岩が今にも落ちそうで、かの弁慶でさえ通るか通るまいか七戻りしたといわれています。

<高天原> 「神様の世界」を意味し、天照大神(あまてらすおおみかみ)を祀る稲村神社があります。

<母の胎内ぐり> 筑波山禪定(修験の行)行場。岩を抜けることで生まれた姿に立ち返ることを意味しています。

<陰陽石> 高さ 10mを超える巨大な岩が 2 つそびえたち、陰陽寄り添っているように見えます。

<出船入船> 「熊野の鳥居石」といわれ船玉神を祀ります。石の姿が出船と入船とに並んで見えます。

<裏面大黒> 大きな袋を背負った大黒様の後ろ姿に見える岩です。

<北 斗 岩> 天にそびえたつ岩で、天空に輝く北斗星のように決して動かないことを意味しています。

<屏 風 岩> 屏風のような岩で、素戔鳴尊（すさのおのみこと）を祀っています。

<大 仏 岩> 高さ15mもあり、大仏のように見える岩です。

<ガ マ 岩> 元来「雄龍石」といい、傍らに「雌龍石」もあります。永井兵助が「がまの油売り口上」を考えたことでガマ石と呼ばれます。

<セキレイ岩> この石の上に鶴鴒（せきれい）が留まり、男女の道を教えたといわれます。

<御幸ヶ原と紫峰杉> 男体山と女体山の間にある広場が御幸ヶ原です。ここから少し下ったところに、男女川源流があり、傍らに「紫峰杉」と呼ばれる樹齢800年、樹高40m、幹回り7mのスギの巨木がそびえています。

登山コースの案内

Bコース 奥久慈男体山・袋田の滝（654m、大子町） 縦走コース 体力度 ★★★★★

= コースタイム =

距離 7.0km 行動時間 6時間 20分(休息込)

宿舎出発 6:00 = (バス) = 6:05 袋田の滝見学 7:10 = (バス、車中朝食) = 8:00 大円地 (登山口)
8:20 → 10:00 男体山頂 10:10 → 11:00 白木分岐手前 (昼食) 11:30 → 第2展望台 13:00 →
第1展望台 13:30 → 14:40 新月居トンネル東口 (下山口) 15:00 = (バス) = 水戸駅 17:00

= 奥久慈男体山・袋田の滝について =

奥久慈男体山は、常陸太田市と久慈郡大子町の境に位置する山で標高654m、山頂には一等三角点があります。南北に延びる尾根の西側には高さ300mに及ぶ岩壁が連なり、東に奥久慈の山々（白木山、高崎山、竈岩、明山）、西に那須連峰や日光連山まで見渡せ、冬には遠く富士山も見ることが出来ます。袋田の滝は、日本三名瀑(*)のひとつであり、高さ120m、幅73m、4段に落下することから、別名四度の滝とも呼ばれています。この滝は四季に一度ずつ来てみなければ、真の風趣は味わえない素晴らしいところです。

男体山から袋田の滝コースは、奥久慈の代表的なコースで岩峰を登るスリル、自然林（新緑、紅葉）の尾根道、名瀑との出合える素晴らしいコースです。特に秋の紅葉に彩られた岩壁の景観は圧巻です。

(*) 袋田の滝（茨城県）、華厳の滝（栃木県）、那智の滝（和歌山県）

= 登山コース解説 =

今回は時間の都合で、先に袋田の滝を見てからバスで登山口の大円地（おおえんじ）へ移動します。

大円地の家並みを抜け、畑の中を行くと間もなく健脚コースへの分岐に出ます。畑の縁を通過して、左に沢をつめると展望のよい尾根へ出ます。ここで、眼前に男体山特有の巨大な火山角礫岩（集塊岩）が突出し、そのあいだにカエデなどの紅葉が織りなす素晴らしい景観が突然現れます。登山道は急傾斜が続き、ロープ、鎖の張られている岩場が続きます。山頂からの久慈川の谷、奥久慈の山々の展望は圧巻です。

山頂から一旦来た道を東屋まで下り、縦走路を北へ向かいます。稜線に沿って進むと、右側一帯にゆるやかな

起伏の草原である持方牧場が開けます。牧場を眺めながら尾根を歩き、やがて木梯子を組んだ見返坂を下ります。小さな沢を3つほど超えると定本、鰐ヶ淵への分岐に出ます。右の道を進んで、いったん稜線に出てから山腹を行くと、水根への道が右へと分かれます。左の急坂をしばらく登ると尾根に出て、露出した岩の第二展望台に着きます。西側に素晴らしい展望が開けています。ここから尾根をひとつ越えると第一展望台に出ます。山間に点在する集落と、八溝、久慈山塊の山並みを一望することが出来ます。

展望台から急坂を月居（つきおり）トンネル東口まで下り、ここから車道（旧道）沿いに約700m歩くと、下山口の新月居トンネル東口に到着します。

以下、コースの主な見どころを紹介します。

＜大子温泉＞

大子町の中心を流れる久慈川に沿って散在している温泉です。ナトリウム硫酸塩泉（旧茫硝泉）という無色透明の泉質は、美人を創る滑らかな湯として知られています。今回はこの大子温泉の公共の宿に宿泊します。

＜長福山(496m)＞

長福山には女体山の別称がついています。奥久慈男体山が険しい岩山に対し、長福山は対照的に優しくおおらかな山容です。男体山が男体神社を擁するのに対し、長福山は長福寺観音堂を中腹に置いています。地元では一対の霊山として崇敬されています。今回は、縦走路からそのたおやかな山容を見下しながら歩きます。

＜月居山＞

袋田の滝の後ろ盾のように聳える双耳峰です。四季を通して、この山の肩から月が昇ることから月居山と呼ばれるようになったと言われています。山頂には戦国時代佐竹氏の一族、袋田氏の築いた城跡があり、元治元年（1864）、武田耕雲斎の率いる天狗党約千人と市川三左伊衛門ら諸生党約二千人が戦った古戦場でもあります。

登山コースの案内

Cコース 竜神峡（475m、常陸太田市）

沢登り 体力・沢登り技術 ★★★★★

= コースタイム =

距離 7.4km 行動時間 7時間10分(休息込)

宿舎出発 7:30 = (バス) = 7:50 竜神ダム（登山口）8:00 → 8:50 亀ヶ淵（遡行準備）9:20 →
(沢遡行、途中昼食) → 14:00 遡行終了点 14:30 → 15:10 中武生林道（下山口）15:30 = (バス)
= 水戸駅 17:00

= 竜神峡について =

竜神峡は、竜神川が長い年月をかけて十数kmにわたり原生林に刻んだV字型の渓谷です。流れの途中にはほところどころに淵や瀬があり、竜のように屈曲した美しい景観を作り出しています。

古くは寛政年間（1791～7）「美みち^{くさ}」（雨宮瑞亭著）、文化7年（1810）「八^{みぞき}溝紀行」（郡奉行入江正身著）にも記され、竜が棲んでいたといわれる竜神峡。竜にまつわる伝説が現在に伝わります。

本コースは、沢登りコースではありますが、滝の直登や深い徒渉などは無く、川原歩きと小滝・瀬のヘツリや高巻きが主のコースです。どちらかと言うと「沢登り」より「沢歩き」と呼んだ方が的確かもしれません。し

かし少ないながらも岩の登下降や徒渉もあります。靴が濡れるので替えの靴や着替えを持参していただきたいと思います。

過去の登山大会や講習会等でコースに手が加えられており、悪場には鎖や鉄杭が設置され、チップングされた足場もあり難易度は大分落ちましたが、今でもルートを考えながら遡行する楽しさは残っております。

＝ 登山コース解説 ＝

前夜は紅葉の色彩豊かな山里の温泉宿に宿泊し、バスで登山口へ移動します。

今回の竜神峡遡行は、竜神ダムから歩き始めます。亀ヶ淵までは竜神川左岸に遊歩道が整備されており、楽に歩けます。約1時間秋色に染まった奥久慈の眺めを堪能してください。

亀ヶ淵で沢支度をしてから入渓します。ここは釜が連続する「12釜」と呼ばれるところです。なお、水量が多い場合は左岸を高巻きしてからの入渓となります。ここを抜けるとゴーロ状となります。小さな滝や瀬が出てきてヘツリを強いられますが、悪場には鉄杭があり、難なく通過できます。

やがて、沢一杯に行く手を遮るような大きな第一堰止岩に着きます。その後しばらくは静かな流れが続きます。第二堰止岩の先の瀬や廊下状のところは右岸を高巻きます。S字状のS字峡は右岸を高巻きます。固定ロープがあるものの緊張するところです。この後は、静かな瀬と滑が続き楽しめます。ほどなく親子淵に出ます。ここは右岸を固定ロープに沿って高巻きます。沢床に戻ると間もなく竜神槍と呼ばれる槍に似た岩が現れます。ここには自家発電に使用した小さな水車の名残もあります。

最後にかぶり気味の大岩を乗越すと左岸に台地が現れます。ここが今回の遡行終了点となります。沢支度を解き山道の登りに備えます。涸れ沢に沿ってひと踏ん張り登るとゴールの中武生（なかたきゅう）林道に出ます。ここで奥久慈の山波をゆっくり堪能してください。

以下、コースの主な見どころを紹介します。

＜竜神ダム＞

竜神川を堰止めて作られた多目的ダム。昭和54年（1979）の完成。堤高45m、堤頂長90m、総貯水量3百万立方m。ダム湖の上に「竜神大吊橋」が架けられている。春には湖面上に約1,000匹の鯉のぼりが架けられその群泳する姿は圧巻です。

今回の登山行動はこのダムからのスタートとなります。

＜竜神大吊橋＞

平成6年（1994）に開通した本州No.1の長さを誇る歩行者専用の吊橋です。橋の全長は375m、高さは竜神ダムの湖面から100m。世界一の長さを誇る明石海峡大橋と同じ構造で、主塔は竜神峡の伝説の竜が天に昇るイメージをデザインしたものとなっています。100mの空中散歩とV字型の竜神峡の絶景を楽しむことができます。今回はこの吊橋を見上げながら歩くことになります。

＜亀ヶ淵＞

竜神ダムから約4km上流にあり、古い滝壺が変化した神秘的な淵。以前は7～8mの立派な釜であったが、土砂が堆積し、かつての半分程度の規模となり、神秘的な趣は無くなったのは寂しい限りです。

今回は、ここから入渓することになります。

登山コースの案内

Dコース 神峰山（598m、日立市）

縦走

体力 ★★★★★

= コースタイム =

距離 10.0 km 行動時間 6 時間 00 分(休息込)

宿舎出発 7:20 = (バス) = 8:00 かみね公園頂上駐車場（登山開始）8:00 → 新田次郎文学碑 8:05
→ 鞍掛山 8:30 → 大煙突展望台 9:40 → 蛇塚 9:55 → 羽黒山 11:00 → 12:20 神峰山（昼食）
13:00 → 14:00 日鉱記念館（登山終了、見学・解説）15:30 = (バス) = 水戸駅 16:30

= 神峰山と日鉱山産業遺跡について =

神峰山（かみねさん）は日立市を取り巻く山並みの主峰的存在で、山頂から太平洋に朝日が立ち昇る様が日立の地名になったと言われています。山頂には神峰神社と日立市気象観測所（無人）があり、太平洋の展望を堪能できます。山腹に日本四大銅山の一つ、旧日立鉱山跡があり、今回のコース途中にも大煙突を始めその遺跡を見ることが出来ます。

下山後、鉱山の発展や公害克服の歴史、産業遺跡などを展示した日鉱記念館に立寄り、明治38年（1905）～昭和56年（1981）の閉山までの76年間、日本の近代化と経済発展に寄与した日立銅山に思いを馳せて頂きます。

また、この山域は日本最古である、5億年以上前の地層（カンブリア紀）からなっており、登山口のかみね公園頂上付近で、そのカンブリア紀花崗岩（かこうがん）の露頭を見ることが出来ます。

= 登山コース解説 =

かみね公園頂上駐車場から車道歩きを始めてすぐの小公園で、小説「ある町の高い煙突」の新田次郎文学碑に立寄ります。その後、車道から分かれて鞍掛山の登りになり約20分で頂上に着きます。眺望がよく太平洋が一望できます。20分ほど下り車道を横断し階段状の急坂を上り、ヒサカキが植栽された広い尾根道を進んでゆくと、やがて大煙突の展望台に到着します。

さらに進むと蛇を殺した為のたたりが村人を苦しめた伝説が残る蛇塚（じゃづか）に着きます。さらに、北部にある小木津山自然公園からの登山道との合流点に着き、ここからは、羽黒山への急登となります。

約30分で羽黒山（はねぐろさん）頂上です。

見通しはありませんが頂上には日立鉱山が設置した煙害監視櫓が老朽化し錆びた状態が残っています。

羽黒山から神峰山までは約1時間の歩行で、途中には鉱山の煙害対策として植栽された桜の一種オオシマザクラが随所に見られます。同時に植栽されたヤシヤブシの木も見られますが、老木となり枯れたものが多く存在しています。羽黒山から下った鞍部には、鉱毒により飲み水として適さなかった北側の集落、沢平地区に飲み水を南側より尾根越えして供給した鉄パイプの名残を見ることができます。

神峰山頂の三角点はちょっと離れたところにあり見通しがなく通過するだけとなります。頂上からは、東側が開け、太平洋、日立市街、大煙突が一望されます。ここから日鉱記念館までは約1時間の下りで、途中にも日立鉱山の遺物のコンクリート構造物、錆びた鉄パイプなどが随所に見られ当時の様子が偲べれます。

以下、コースの主な見どころを紹介します。

＜新田次郎文学碑＞

日立鉱山の煙害問題をめぐって会社側と被害者の農民とが悩み苦しみ、やがて解決に至る経過を描いた新田次郎の小説「ある町の高い煙突」を記念した碑で、高台の小公園に建てられています。

＜日立の大煙突＞

日立鉱山の煙害対策として大正3年（1914）に建設されました。当時の高さは **155.7m** で当時世界一の高さを誇りました。日立市の市内どこからでも見る事ができ日立のシンボルでありました。さらに、小説「ある町の高い煙突」で全国的にも知られるようになりました。平成5年（1993）2月19日老朽化か、強風によるものかは原因不明であるが倒壊してしまいました。残った部分で修復し54mの高さになり現在に至っています。

＜登山コースのオオシマザクラ（大島桜）＞

日立鉱山の精錬所の亜硫酸ガスが山の木を枯らしたため煙害に強いとされるオオシマザクラの木を山に植栽しました。大正5年（1916）ごろから植栽をはじめ古い木は樹齢約100年近くになっており、今回の登山コースでは、随所に観察され、特に神峰山周辺には古木が多く見られ幹の太さ・枝ぶりが見事で一見の価値があります。

登山コースの案内

Eコース 花園・七ツ滝（703m、北茨城市）

周回 体力 ★★

= コースタイム =

距離 5.3 km 行動時間 4 時間 30 分（休息込）

宿舎出発 8:00 = (バス) = 8:40 花園神社市営駐車場（登山開始）9:00 → 第一滝見橋 9:45 →
（班別行動）→ 七ツ滝 → 奥の院峰 10:15 → 月山 10:25 → 男体山 11:30 → 女体山 10:35 →
第一滝見橋 11:00 → 11:30 花園神社（昼食、講話）13:20 → 13:30 市営駐車場（登山終了）
13:50 = (バス) = 14:40 五浦海岸・六角堂（見学・講話）15:10 = (バス) = 水戸駅 17:00

= 花園・七ツ滝、五浦海岸・六角堂について =

花園山系は花園花貫県立自然公園に含まれます。

このコースの起点である花園神社は、延暦14年（795）坂上田村麻呂勅定により奥州下向の折り、夢を見て創建されました。

七ツ滝は奥の院峰の小さな溪谷で、七段になって落ちています。四段目の滝壺は、磯原海岸沖合いの亀磯の磯壺に通じており、滝壺には海藻が生えアワビが生息すると信じられていました。このアワビは、アワビを採る海女を恨む、さらに全ての女性を恨むようになり、女の人が滝壺に近づくと引き込んでしまうと思われていたので、この山は女人禁制の霊山とされました。

五浦海岸は、亀ノ尾層（1800～1900 万年前）、九面層（ここつらそう）（1650 万年前）、大津層（1000 万年前）と呼ばれる地層から成ります。毎日太平洋の荒波が打ち寄せ、波の浸食によってできた海食崖です。五つの浦（端磯、中磯、椿磯、大五浦、小五浦）からできています。

六角堂は大五浦と小五浦の間にあり、明治時代に活躍した美術家であり、日本美術院の創設者である、岡倉天

心が思索の場所として作りましたが、平成 23（2011）年 3 月 11 日の東日本大震災の津波により土台のみを残し姿を消しました。平成 24（2012）年再建され 4 月 17 日に竣工式が行われました。

＝ 登山コース解説 ＝

このコースは、七ツ滝を右に見て滝の脇にある参道を木の根をよじ登り奥の院峰に登頂後、月山社・男体社・女体社を回る周回コースで、歴史に触れ深山に身を置き、幽谷を見ることができます。

広い市営駐車場から舗装道を花園神社に向かって進み、花園神社を過ぎて右へ周り込むと先程よりは小さな市営駐車場に出て、直ぐ右側に十二神将があります。沢に沿って緩やかな上りの道を真っ直ぐ進み、左側の展望が開けてくると七ツ滝入り口は近く、第一滝見橋を渡り七ツ滝入り口に出ます。鳥居があり、奥の院の参道でもあります。

ここから、班別行動となります。鳥居をくぐり石段の道を登りつめると、裏参道への分岐。ここを小さく回り込み、左側に東屋が現れると七ツ滝にでます。滝の脇の急な階段を登りつめた所に手摺りの付いた小さな展望台があり、最上段の滝が見えます。シャクナゲの咲く時期には、滝と花が作る素晴らしい景観が見られます。

ここから先は昔からの参道で、木の根に掴まりながら急登をよじ登り、山頂近くには鎖もあり、難所が続きます。鎖場を超えると巨大な花崗岩が露出した山頂で、真ん中に奥の院の小さな祠があり、樹間からは東方の展望が開けています。山頂からわずかに下り登り返した所の分岐に月山社への道標があり、左折して少し下った開けた所が月山社、さらに少し離れた小さなコブに男体社、女体社が祀られています。

女体社からは急な下りになり、小さな沢の源流を越え、沢を左に見るようになった所の岩場を鎖で下ります。さらに続く足場の悪い急坂をロープを利用して下り、沢を渡ると林道に出ます。林道を左折して下ると七ツ滝入り口に出ます。後は登ってきた道を戻り、花園神社の境内にて昼食を取ります。

以下、コースの主な見どころを紹介します。

＜花園神社＞

創立は、桓武の昔、延暦乙亥の 14 年（795）4 月坂上田村麻呂勅定により奥州下向の折り霊夢によって創設され、慶長 7 年（1602）徳川家より、社領五十石の御朱印を寄進され、古来より大北川沿流十ヶ村の総社となっています。

境内には、茨城県指定のコウヤマキ（高野槇、御神木 樹高 30m 幹囲 4.5m 樹齢 600 年）が拜殿前に左右 2 本、大杉（三本杉 樹高 45m 幹囲 7.5m 樹 500 年）が拜殿前より 50m 先に 1 本あります。

春は新緑、シャクナゲ、秋には紅葉が素晴らしく心身共に癒してくれます。

観光オプションツアーのご案内

トップツアー（株）水戸支店

水戸市城南 2-1-20

TEL : 029-224-6627

FAX : 029-224-9253

取扱主任者 栗野 芳男

Aコース 『日本三名園「水戸偕楽園」と弘道館・大洗海岸』

＜水戸駅発～東京駅着（上野駅経由）＞

11/10 （日）水戸駅南口 == 水戸偕楽園 == 水戸弘道館 == 那珂湊さかな市場＝
8：30

== 大洗海岸（昼食） == 上野駅経由 == 東京駅八重洲口
12：20 13：30 16：00 16：20

〈旅行条件〉 お一人様 9,500 円

*募集人員 40 名 最小催行人員 20 名、添乗員同行 昼食 1 回 入場料を含む

Bコース 『日本三大稲荷「笠間稲荷神社」と筑波宇宙センター』

＜水戸駅発～東京駅着（上野駅経由）＞

11/10 （日）水戸駅南口 == 笠間稲荷神社 == 筑波宇宙センター ＝
8：30

== つくば市（昼食：バイキング） == 上野駅経由 == 東京駅八重洲口
12：50 14：00 16：00 16：20

〈旅行条件〉 お一人様 9,500 円

*募集人員 40 名 最小催行人員 20 名、添乗員同行 昼食 1 回 入場料を含む

第52回全日本登山体育大会参加申込書

平成 25年 月 日

★送付先

トップツアー(株)水戸支店

〒310-0803

茨城県水戸市城南2-1-20

(南ウイング水戸ビル6階)

TEL:029-224-6627

FAX : 029-224-925

担当：栗野・土屋

*コピーを2部お取り下さい。1部は保管、もう1部は所属山岳連盟(協会)へ送付して下さい。

記載責任者名 (参加者代表)			役職			所属山岳会名称	
住所 (書類送付先)	〒						
連絡先	TEL		FAX		携帯		

	フリガナ 参加者名	住 所	男 女	年 令	生年月日	希望コース ※①		来県交通手段 ※②	OP 観光	航空券 ※③
例	イバラキ タロウ 茨城 太郎	〒310-0803 茨城県水戸市城南2-1-20	男	58	T S H 27年10月10日	第一希望	A	車・JR 航空機+JR	A	要・不要
1		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				
2		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				
3		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				
4		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				
5		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				
6		〒			T S H	第一希望		車・JR 航空機+JR		要・不要
						第二希望				

※①必ず第二希望もお書きください。 ※②水戸への利用交通手段に○印をお付け下さい。 ※③茨城空港まで航空機を利用希望の方はご記入下さい。当社より連絡させていただきます。(5名以上) ※ 7名以上で参加申し込みの場合はこの用紙をコピーしてご使用ください。

裏面

第52回全日本登山体育大会 参加費等振込み明細書

トップツアー(株)水戸支店行き

振込控え添付欄

振込明細欄			
項目	単価	数	合計
参加費	33,000円		
オプションツアー	9,500円		
振込金額			

領収書発行依頼書	
宛名	
金額	
但し書き	
宛名	
金額	
但し書き	
送付先	〒